

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 4 年度第 1 回上尾市図書館協議会	
開 催 日 時	令和 4 年 8 月 1 日（月）午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分まで	
開 催 場 所	上尾市図書館本館 2 階 集会室	
議長(委員長)氏名	代島常造	
出席者(委員)氏名	須賀聡、佐々木智美、加藤寛子、宮内礼子、大谷内久美子、代島常造、若松昭子、清水松代、岸清俊、山田浩一、	
欠席者(委員)氏名	北川悦子、高村裕美	
事務局(庶務担当)	山内館長、久我副主幹、中島主査、高橋主査、中里主任、鈴木主任、岩田主任、若林主事	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 報告 ①利用者モニタリング調査の結果について ②令和 3 年度上尾市図書館事業報告について ③令和 3 年度第 3 次図書館サービスの進捗状況について ④令和 4 年度上尾市図書館事業概要について (2) 議題 ①第 3 次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について	別紙「議事の経過」のとおり
議 事 の 経 過	別紙「議事の経過」のとおり	傍聴者数 5 名
会 議 資 料	令和 4 年度図書館利用者アンケート【速報版】 上尾市図書館要覧（令和 4 年度） 資料 1-1 第 3 次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗状況報告書 資料 1-2 令和 3 年度第 3 次上尾市子どもの読書活動推進計画の実施状況について 資料 2-1 令和 4 年度図書館事業概要 資料 2-2 令和 4 年度子どもの読書活動支援センター事業概要	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 令和 4 年 9 月 9 日署名済み 議長（委員長）の署名 _____ </div>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	報告① 利用者モニタリング調査の結果について
議長	報告①について意見、質問はあるか。
A委員	若い世代からは「ほぼ満足」、高齢者からは「あまり満足していない」という結果が出ているが、これは若い世代は上尾市以外の図書館を知らず、高齢者は転入等をしてきた方で、上尾に引っ越す前にもっと良い図書館が存在していたことを知ったうえで不満足と回答しているのではないか。様々な図書館を視察してきた立場から申し上げますと、このモニタリングアンケートの数字を鵜呑みにしてはいけない。若者が満足しているということの結果に甘んじてはいけないと考える。
副委員長	レファレンスサービスや電子図書館の高齢者の利用率が低い結果について、高齢者は図書館教育を受けていない世代も多く、学校図書館の整備が不十分な時代を過ごしてきたため、図書館という施設が何のためにあってどのように使うかなどをイメージしにくい。そういった方々に、レファレンスサービス、電子図書館をどのように理解してもらい利用してもらうか、どう広報していくかがこれからの図書館の課題である。
B委員	モニタリングアンケートの結果の中で、レファレンスサービスを今後利用したいかの質問項目について「わからない」との回答が多いが、レファレンスサービスについての具体的な使い方が分かるような、利用してみたいと思わせるような働きかけが必要である。 また、館内の快適さについて、もっともっと図書館に興味を持ってもらえるような、身近にある居心地の良い場所、第3の居場所である図書館として発信していく必要がある。
議長	本議題については、以上でよろしいか。
委員	(異論なし)
事務局	報告② 令和3年度上尾市図書館事業報告について
議長	報告②について意見、質問はあるか。
B委員	要覧18ページにある「イ おはなし会」の中の「誰もいない児童室で怖いおはなし会」など、魅力のある企画が素晴らしい。これからもドキッとさせるようなイベントがあればいいと考える。 また、「高校生のお兄さん、お姉さんの絵本の読み聞かせ」とあるが、本への親しみというのは幼い時からあるので、そういうイベントを今後も検討して欲しい。
C委員	要覧24ページの利用者数について、滞在時間は以前と比べてどのようになったのか、印象でよいので教えて欲しい。
事務局	令和3年度については、滞在時間を2時間に制限していた期間が長く、実際は、

	<p>モニタリングアンケートの結果のとおり、貸出・返却のサービスが中心であり、30分未満の滞在時間の方が、このアンケートに沿うように多かったと考える。</p>
副委員長	<p>相互貸借では、他市から借りた冊数より他市に貸した冊数が多いことについて何か理由があるのか。</p>
事務局	<p>他市町村では、新刊の書籍は購入後何か月か他市町村に貸し出さない決まりがあるが、上尾市では新刊であっても予約が入っていなければ、他市町村からの依頼によりすぐに貸し出すことができることが理由だと考える。</p>
議長	<p>本議題については、以上でよいか。</p>
委員	<p>(異論なし)</p>
事務局	<p>報告③ 令和3年度第3次図書館サービスの進捗状況について</p>
議長	<p>報告③について意見、質問はあるか。</p>
委員	<p>(質疑無し)</p>
事務局	<p>報告④ 令和4年度上尾市図書館事業概要について</p>
議長	<p>報告④について意見、質問はあるか。</p>
委員	<p>(質疑無し)</p>
事務局	<p>議題① 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について</p>
議長	<p>議題①について意見、質問あるか。</p>
D委員	<p>前回の協議会で電子図書館についてスマホで5回クリックしないとたどり着かず分かりにくいという指摘に対し、バナーを設けるということで改善された。レファレンスについてもバナーを設けており非常に業務改善している。この改善による結果が、計画項目「1.3.貸出」に反映されている。</p> <p>「1.5.予約・リクエスト」については、図書館要覧の26ページ「(8) 予約・リクエスト利用状況」の数字からも達成水準はもう少し高くてもいいと考える。</p>
A委員	<p>「基本方針Ⅲ市民の学びと活動の支援」全体として16.3%の達成率を示しているが、その中の「3.6.学習活動の支援」の取り組みはよくやっていると感じ、20%の評価は適正である。学校の図書室は、セット本を貸出しできる学校と閲覧のみ可能な学校があり、学校によって差が出るが、非常に頑張っている。</p>
副委員長	<p>サービス計画の「計画項目別達成水準」については、どのように算出しているのか。</p>

事務局	各計画項目の担当がそれぞれ評価を行い、リーダー以上の職員が、その後確認した際、高すぎる評価と判断した場合は、修正するなどの措置を施している。
事務局	資料1-1の1ページにある通り、「自己評価の基準」というものがあり、この基準の5段階評価により4の評価を付けたら20%、3であれば15%の計画項目別達成水準が付くことになる。
副委員長	その評価を各担当が評価して、館長が統括したということか。
事務局	そのとおり。
副委員長	自己点検評価とモニタリング（アンケート）結果の関係について聞きたい。自己点検評価結果はあくまで計画1年目の目標達成度、モニタリング結果は利用者の図書館に対する満足度であり、基準が異なる。また、当初の事業計画の設定時にはまだモニタリングを行っていない。そのため、一年目の自己点検評価結果とモニタリング結果で一致しない箇所があるのは仕方がない。しかし、今後モニタリング結果をどのように活用していくのか。例えば、「1.1.図書館資料の収集等」では、自己点検評価結果は、職員が掲げた事業計画が計画通り実行できたかどうかについて、計画通り実行したので高評価とした。一方、モニタリング結果からは、利用者が求めているものが、図書館側で選書し購入した図書とは必ずしも一致していないことが判明した。そこで、これについては来年度以降の計画に盛り込んでいく、というロジックでいいのか？
事務局	必ずしもアンケート結果と一致していない。モニタリングアンケートは、評価を行うための指標、参考になり得る項目をあげて質問項目を選定している。ただ、今回のアンケートは初回ということもあり、精査が不十分であったと考えており、来年度以降改善をしていく。
副委員長	もう一点、多文化サービスについて、上尾市在住の外国籍の方の人数は？
事務局	7月1日時点で、上尾市の人口23万人の内の4,307名。
副委員長	外国籍の方向けの資料を整備し、コーナーの設置をしたようだが、その4,000名の国籍を考慮して資料を収集しているのか、それとも、結果的に英語の資料がほとんどなのか。
事務局	多文化サービスについては、図書館の利用案内が英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語で作成しており、これらの言語を比較的揃えて行こうという意図はあるが、出版されているものの中で、これらの言語を揃えるのは難しく、英語圏の資料が多くなっている。英語表記の折り紙の本や盆栽の本など日本の文化を学ぶ本や、生活する上での優しい日本語の書籍を取り揃えているが、実際には外国籍の方が使う本というよりは、日本人が外国を知るために利用することのほうが多い現状である。
副委員長	地域によってはポルトガル語を話す方が圧倒的に多いなど地域差があるが、特に上尾市はそういう特徴があるわけではなく、それら4か国語くらいが主に使われていることか。
事務局	その通り。なかなか本がないのが現状である。
副委員長	取り組み自体について高く評価するが、地域差もあるので上尾市在住の外国人

	<p>の特徴を捉えていく必要がある。新しい取り組みなのでまだまだサービスへの認知度は低く、利用者も敷居が高いと感じているだろう。このあたりのことは今後の課題である。</p>
E委員	<p>モニタリングアンケートの実施が6月とあるが、年度の考え方について伺いたい。今後5か年に渡って評価するにあたり、年度の区切りをどのようにとらえるべきか。</p>
事務局	<p>年度の区切りとしては3月末を想定している。モニタリングアンケートは5月に実施しており、年度が終わってすぐに振り返りが出来るタイミングであり、もちろん4月にできればベストであるが、一年間を通して、その年度がどうであったかを評価するにあたり適切な時期と考えており、来年度も同じ時期に実施しようと考えている。</p> <p>来年度も令和5年度中に令和4年度を振り返ってモニタリングアンケートを行うというイメージになる。そして、これを繰り返すことで前年度の利用者の評価が拾えてくるのではないかとというのが当初の設計となっている。モニタリングアンケート調査については、利用者の皆様が前年度を見て感じたことが結果として表れていると認識してもらえればよい。</p>
E委員	<p>進捗評価にもモニタリングアンケートの結果がかなり反映されているようなので、年度の振り返りであるならば、本来ならば年度内に実施するのが好ましいが、今の説明を聞くと、次年度以降も翌年度の初めにモニタリングアンケート調査をし、集計するということであることが分かった。</p>
B委員	<p>「2.1.レファレンスサービス」について自己点検評価は満点評価となっており妥当と考える。一方、モニタリングアンケートの結果では、レファレンスサービスというものが市民の方々に行き届いていないなと読み取れるが、モニタリングアンケートでの意見を令和4年度の事業計画に盛り込んでいく考えがあるのか。</p>
事務局	<p>令和4年度の実施計画自体は前年度中に立てている。その策定時点で市が把握している情報については、当然4年度の目標として盛り込んでいるが、策定時の見込から大きく異なるものや乖離の激しいものについては、すぐ修正することは難しいのも事実である。こういうものに対し、年度途中での計画の修正や、もしくは、令和5年度に盛り込むなどして今後もしっかり対処していきたいと考えている。</p>
B委員	<p>資料1-2、6ページにある放課後子ども教室について、原市公民館の他の公民館での実施があるのか。それから、実施した際の児童の反応について伺いたい。</p>
事務局	<p>放課後子ども教室自体は、生涯学習課の事業であるが、学校に隣接する公民館で実施しており、上尾では大石公民館と原市公民館に限って行っている。また、原市公民館図書室も放課後子ども教室とタイアップしていこうと考え、本の並びを学校の授業を意識して、児童が本を探しやすい配置にしている。また、大石公民館には図書室がないので、読み聞かせや絵本にちなんだ工作などを実施してタイアップしているところである。原市公民館では大人も子供も使えるロビーで放課後子ども教室を行っていききたいと考えている。</p> <p>子供たちは、とても楽しみにしてくれており、そこでの作品をロビーに飾るなどし、親御さんの反響はいいかと考える。</p>
B委員	<p>公民館との連携は今後も大事になってくるので、頑張ってもらいたい。</p>
議長	<p>本議題については、以上でよろしいか。</p>

委員	(異論なし)
議長	それでは、以上の審議をもとにこれらの評価を踏まえ第三者評価を作っていく。評価については委員長と図書館長に一任するという事でよいか。
委員	(異論なし)
	以 上